

私は今回、法政大学現代福祉学部における国内福祉研修制度を利用し秋田県山本郡藤里町を、8月26日から28日までの3日間訪れた。私の所属する高齢者傾聴ボランティアサークルごまちゃんは毎年2月中旬に、藤里町に住む独居高齢者宅の除雪作業及び藤里町社会福祉協議会のバックアップの下、様々な福祉施設との交流を目的として活動している。

藤里町は高齢化率40パーセントを超える超高齢化地域であると同時に、豪雪地帯でもある。独居高齢者は社協のサービスを受け生活をしているが、人手不足など様々な原因により完全に支援しきれていないのが現状である。そのような現状をより深く知るため、自らボランティアとして実際に訪れることで、私は多くを学ぶことが出来た。私はこれまで二度藤里町で活動してきたが、いずれも2月の真冬の季節であった。そのため今回の訪問では雪のない違った姿の藤里から新しい発見があればと思い、本研修への参加を決意した。

この非常に有意義であった研修は社協への挨拶、打ち合わせから始まった。その後、藤里町のソフトバレーボールチームとの交流であった。そこで秋田看護福祉大学から実習として社協に来ていた実習生とも合流した。交流後昼食を摂り、社協に併設されているぶなっちの入居者と交流した。ぶなっちは、日常生活をする上で大きな問題がなくとも一人自宅で生活するには不便が生じることが懸念される高齢者を対象に設けられた短期入居型の施設である。たとえば、骨折し入院して退院した直後で一人で生活するには不安である、といった場合などが挙げられる。社協に併設されているため、職員の目にすぐ留まる、申し込めば食事のサービスが付く、バリアフリーに特化した造りである、入居者本人の私物を持ち込めるため自宅のような安心感が得られるなど、メリットは様々ある。

二日目はまず、以前からお世話になっている独居高齢者のお宅を訪問させていただいた。夏の藤里、去年私たちが来た時の事、様々な話をしつつ交流を深めた。午後には元気の源さんクラブと呼ばれる予防介護サービスへボランティアという形で参加した。事前に私たちのために作っていただいたお菓子を頂きながら話しをしたり、歌を歌ったりするなかで、藤里の元気の源を肌で強く感じる事が出来た。その後、社協の職員、役場の皆さん、秋田看護福祉大学の实習生、宿泊させていただいた宝昌寺の住職様と一緒に食事をして交流した。

最終日である三日目は、出張源さんクラブに参加した。出張源さんクラブとは我々が主に活動している地区の隣の大沢地区にて行われる予防介護サービスである。そこではそば打ち体験をしながら大沢地区の皆さんと交流することが出来た。午後は、ぶなっちと同様に社協に併設されているデイサービスセンターにボランティアという形で参加した。その日は夏祭りがプログラムのメインであり、グループホームみさとえんの入居者もいらしており、利用者の歩行補助をしつつともに楽しむことが出来た。この非常に濃密な三日間はあっという間に過ぎてしまったが、さらなる経験、学びを得ることが出来た。

例えば、就労支援施設こみっとである。私たちは藤里町社会福祉協議会のご厚意により、社協局長様から現在注目されている社協の取り組みの一つであるこみっとについて詳しく教えていただいた。こみっととは、ひきこもり、職不足など様々な理由からはたらくこと

から遠ざかっている若者の就労機会を増やす取り組みを行っている施設である。その職の種類は非常に多岐にわたり、ヘルパー2級などの資格取得補助、併設された食堂での勤務、人材派遣といった形で草刈りなどの農作業の手伝いなどがある。

これだけでも非常に支援の形が整っているが、驚くべき点は他にある。それは勤務形態である。なんと休みたかったら休んでもいいというのだ。これについて局長は、「はたらくことから遠ざかっていた若者は、“一日でも休んではいけない”“休んでしまったらどうしよう、迷惑をかけたくない”といった不安がはたらく前から積み重なってしまい、最初の一步が踏み出せない場合が多い。そこで、無理せず休んでもいいという安心感をあらかじめ与えることで、不安の解消につながる。」と述べていた。これには私も同意である。強迫神経症、あるいはそれに近い気質、性格の人にとっては“～してしまうかもしれない”という怖さが以上に強まってしまう。その怖さから社会になじめないというケースも少なくないのでこの対策は非常に理にかなったものだとわたしは考える。

また、2015年度から政府は就労移行支援事業について更なる取り組みの強化を図ることを発表している。その先駆的な取り組みとして、こみっとが全国規模で注目を集めているのだ。すでに多くのNPO、他地域の社協が見学を訪れているほどである。私たちはそれまで併設されている食堂しか利用したことがなかったため、まさかこのような事業を行っている施設とは考えてもいなかった。三度目の訪問で藤里社協を少しは理解した気だったが、まだまだ通う意味があることに未熟さと同時に嬉しさを感じた。

また、三度目の訪問となった藤里町は前回に比べてとても印象的なものとなった。まず、私のことをしっかり覚えていて下さっていた高齢者の方々が多くいらしたことがとても嬉しかった。昨年度言われた「また来てね」という言葉の重みを肌で感じた私にとって、「またきてくれたのね」という言葉には、言葉にならない感動があった。このときほどまた来て本当によかった、と思った瞬間はない。ただ、印象的なのはいい面もあれば、よくない面もあった。昨年度の合宿でたくさん会話をし、とても仲良くなれた方は多く先述のように今回覚えてくださった方も多かったのだが、逆に、アルツハイマー病などが進行し、会話もできなくなってしまっていた方も何人かいた。私にとってはそれがとても衝撃的であった。そして同時に悲しみも感じた。だが、そういった点も含めて毎回訪れるたびに行ってよかったと私は考える。私はこの経験の中で、進行する病状に向き合う高齢者の方や、職員の方の事を考えることが出来た。一度の訪問では感じられない、より深いところを学べたことで自身の成長を感じられてとてもよかった。

このように、訪問すればするほど自分にとって価値のある合宿になるこの秋田での研修は、いつまでも後輩たちに繋がればよいなと私は願う。なぜなら、この魅力を感じられるのは実際に訪問した者、より多く訪問した者だからである。